（様式１）

学力向上のための重点プラン【中学校】

新宿区立牛込第三中学校

■　学校の共通目標

授業づくり	重点	◦基礎・基本の徹底と習熟度に応じた学習の推進・工夫 ◦ICT 機器の有用活用 ◦主体的・対話的な学習形態の積極的な導入と工夫	中間評価	・各教科ともに基礎・基本を重視ながら、習熟度に応じた授業を工夫している。 ・新しい ICT 機器を授業に活用するよう努めている。	最終評価	・基礎・基本を重視しながら習熟度に応じた指導を行い、特に少人数授業においては、成果が出ている。 ・新しい ICT 機器を活用するように努めている。
環境づくり		◦授業規律の徹底と定着 ◦多面的な生徒理解と個に応じた指導の工夫(家庭学習等) ◦教室掲示や板書の構造化		・授業規律を徹底するとともに、主体的・対話的で深い学びの授業を目指している。 ・その日の授業目標や内容を始めに板書して、授業の方向性を示している。		・授業規律を徹底し、主体的・対話的で深い学びの実践を重ね、授業改善を進めている。 ・その日の授業目標や内容などを始めに板書して授業の方向性を示すことにより、集中力を高め、個々の学力向上に結び付くよう、実践している。

■　教科の取組み内容

教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（２月）
国語	調　２年では、区、全国の平均正答率を下回る項目が半分近くあり、特に「漢字を書く」「作文」において差が顕著である。一方、文章の読み取りでは区、全国を上回っている。３年では、全ての項目で区、全国の平均を上回っており、特に「漢字を書く」「作文」において顕著である。授業規律、提出物など学習状況の差がそのまま結果に結び付いていると考えられる。	・２年では基礎学力の定着が課題である。しかし、学習意欲の低さも数値に出ているので、それが忘れ物や私語を招き、学力向上の妨げとなっている傾向がある。 ・３年では、「文学作品の内容読み取り」に課題が見られる。	・２年では、机間指導や個別対応の時間を増やし、提出課題を出せるように支援を強化する。また、できるだけ「書く」作業を授業時間内に設け、書くことへの抵抗を減らしていく。視覚的な効果をねらって、ＩＣＴ機器を積極的に活用していく。 ・３年においては、学習した教材に関連した作品を紹介するなど、文学作品に触れる機会を多くもたせる。また、ブックトークなどによる読書への喚起を行っていく。	・２年では「書く」活動を増やし、全般的にはよく書く生徒が増えた。だが、提出物の状況が改善しないのは、教科書を忘れるなど、学習意欲が低い生徒がいるためと考えられる。個別対応をし、出せない原因に応じて学習支援や学習習慣の確立のための指導をしていく。 ・３年では修学旅行地に関連した本でブックトークを行った。発表を通して興味をもった本への読書につながっている様子が見られたので、今後も随時、本を紹介し、読書を促していく。	・区調査では、１年は基礎学力はあるが、活用に課題が見られた。２年では多くの項目で区の平均を越えたが、全国と比較をすると下回る項目もある。特に作文や漢字の書き取りには課題が残るが、徐々に基礎学力は付いてきている。 ・区や国の調査結果では、課題であった文学作品の読み取りで力を伸ばすことができた。一方、他の観点に比べて、話す聞くの分野が弱い。話す聞く力を向上させるために、後半で討論の練習を重ね、弱点克服を図った。結果、話す聞く力を向上させることができたものと思われる。
社会	調　平成２８年度区学力定着度調査では、２年・３年ともに全体の正答率が区の平均と目標値を上回っている。観点別・領域別にみても、３年は全て上回っている。しかし、２年においては領域別の「世界の諸地域」で区平均・目標値ともに下回り、観点別では「資料活用の技能」が目標値を下回っている。 学　授業ではプリントを使った学習が行われているが、知識の整理や理解は個人差が大きい。小テストの結果についても同様である。３年よりも２年に、より課題がある状況である。	・２年の「世界の諸地域」で正答率が区平均・目標値ともに下回っているのは「資料活用の技能」が目標値を下回っていることと関連していると考えられる。資料を見て理解し、知識に繋げるという学習過程が定着していない。 ・「覚えること」について苦手意識の強い生徒は学習意欲が低い傾向がみられる。知識の暗記に偏らない学習方法を身に付けさせる。 ・基礎・基本の徹底により、学力向上の底上げを図る。	・各種統計や地図からの読み取り、あるいは作成を普段の授業の中で習慣付ける必要がある。 ・「暗記」や「イメージ」から脱した、事実に基づく正しい社会認識をもたせるために、作業を通して「考える」ことを主題とした授業形態を工夫する。 ・生徒間での学び合い（グループワーク・ペアワークなど）により生徒の多面性を理解し、個性を生かした活動を実践する。	・地理分野に限らず、地図帳を毎回用意させ、いつでも調べられるようにしている。資料集も同様に活用している。 ・資料の比較や、ワークシートの書き込みを行った上で、「まとめ」をし、単元についての自分の意見を必ず最後に記入させている。 ・一つの事例について意見を出し、それを学級で共有する。問題を早く解決した生徒が、まだ解決していない生徒に教えるなどの活動を行っている。	平成２９年度学力調査結果（平均との比較） ３年　関：+5.0、思：+2.2、資：+3.7、知：+9.6 ２年　関：+0.9、思：±0、資：−0.5、知：−0.5 １年　関：+0.3、思：+0.3、資：+1.3、知：−1.4 上記結果より ３年についてはおおむね満足な結果であるが、１・２年は全観点で底上げが必要である。資料活用の技能の強化を目指し、授業展開してきたが、その分知識理解が不十分な結果となった。授業で学んだことを定着させるための家庭学習の指導や小テストの実施を行っていく。
数学	調　平成２８年度区学力定着度調査での２年の結果は全体的に全国平均より上回っている。しかし、その差はほとんど無い。活用の中には平均を下回るものもあった。３年では、基礎・活用ともに全国平均を大きく上回っている。	・数学においては得意な生徒と苦手な生徒で点数、授業に対する意欲に差が出ている。基礎クラスでは数学に対する関心を高めるとともに教科書レベルを確実に定着させる必要がある。 ・数学の得意な生徒の力を十分に伸ばす指導の工夫が課題である。	・基礎・基本的な知識、技能の習得を徹底する。２年は毎回の授業で小テストを行う。３年では週に１回のペースで計算の確認テストを行う。１年においても定期的にまとめテストを実施する。 ・発展クラスでは基本的な問題に加え、応用問題を行うことで数学に対するより深い学習を実施する。 ・３年は発展、標準、基礎と３クラスに分け、より細かく生徒の習熟度に応じた授業を行う。	・小テストにおいては計画通り毎時間実施している。基礎クラスにおいては丁寧に解説を行うことで学習内容が定着できるようにしている。発展クラスでは応用問題を多く取り入れ、より高度な内容の学習を行っている。 ・習熟度別指導を生かし、生徒の実態に合わせた授業を行うことができている。理解することが難しい生徒には個別に指導することで問題解決に役立っている。	・小テストは２年において、年間を通して全ての授業で実施できた。 ・習熟度別指導であったため、発展クラスでは教科書の内容を進むペースが早かった。このことで、章末問題を扱う際に、より深く、より多くの内容を学習することができた。基礎クラスでは少人数であることが非常に効果的で、個に応じた指導ができた。

理科	調　平成２８年度区学力定着度調査の結果を見ると、３年は区平均、全国平均を若干下回るが、ほぼ平均並み。ただし、分野により得点率に差がある。一方で、２年は区平均、全国平均と比べて大きく下回っている。	・科学的思考について、２・３年ともに実験・観察の結果から考察し、結論を導くこと、あるいは結論を一般化し、表現することに課題がある。 ・３年は知識の定着は進んでいるが、２年は、知識の定着が十分でなく、格差も大きい。	・実験や実習を行う際には、実験結果の分析、その現象から分かることや疑問点を表現する活動を日々の学習活動に取り入れる。このことにより表現力を養うとともに、科学的思考力を養う。 ・確認テストや家庭学習課題による復習を頻繁に行うことにより、基礎的な知識の定着の徹底を図る。	・実験データの分析を行う際に、考察文のひな形を提示したり、班での話合い活動の機会を増やしたりしながら、自らが考察することを促し、科学的な思考力の向上を図っている。 ・家庭学習課題の頻度を増やし、日々の学習内容の定着を図っている。 ・ＩＣＴ機器の新しい機能を活用するなど、学習内容に応じた授業の展開を図っていく。	・区の学力調査の結果では、１・２年とも目標値より４～５ポイント下回った。観点別では、１学年は知識が大きく下回っているが、その他の観点は上回っているか、同程度である。２年も知識が大きく下回った。このことから、知識の定着が十分ではなかった。 ・今後、基礎知識の定着を図るために、問題集や小テスト等を使って、反復的学習を進めていく。
英語	調　平成２８年度区学力定着度調査の結果では、２年と３年の双方において、正答率が全国値を上回っており、標準スコアも目標値より高い値である。 学　集団としては、学力の平均値が高く、授業内での発言やペア・グループでの会話にも概ね積極的である。個別では、意欲・学力に上位層と下位層で差が開いる。	・基礎・基本的な内容の定着による、学力の底上げを図る。 ・個を深く理解し、課題に応じたきめ細かな指導を実施する。 ・学力に差がある生徒間での学び合いによる、生徒同士の主体的、対話的な学習活動を実施する。	・基礎・基本的な知識を繰り返し発話したり、問題に取り組むことで確実な学力の定着を図る。 ・生徒と指導者間での対話を主体とした少人数指導により、生徒一人一人をより深く理解し、実態に合わせたきめ細かな指導を行う。 ・各学力層を均等に分けた少人数指導により、学力に差がある生徒間での学び合いを促し、生徒同士の主体的・対話的な学習活動を行う。	・基本文や新出語句をウォームアップや既習事項の確認において繰り返し発話させている。 ・生徒が英語を用いて対指導者、生徒同士で会話する場面を毎時間作り、対話を主体とした授業を展開している。 ・生徒同士で学び合い、教え合うことにより理解が進み、教えることも既習事項の復習となっている。	・区の学力調査の結果、１・２年双方の値が４観点全てにおいて全国値を大幅に上回っており、基礎・基本が定着している。 ・少人数指導で、対話主体のきめ細かな指導を行い、個別支援を充実させた。 ・学力層を均等にすることで生徒同士の学び合いを促進し、基礎・基本の定着と学力の底上げを図った。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況